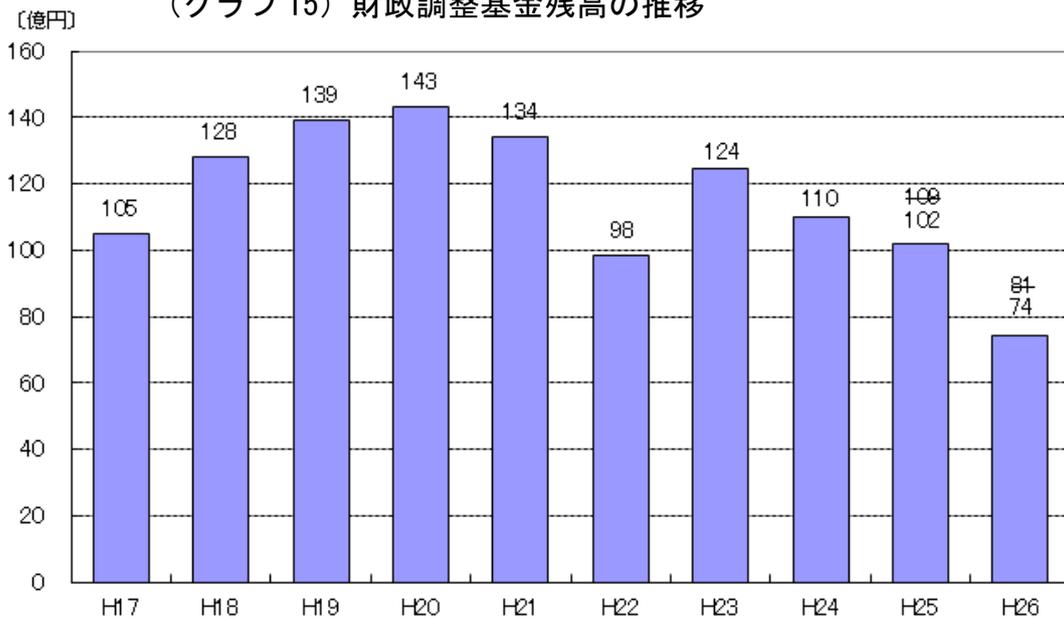


4 財政調整基金

財政調整基金は、各年度の決算剰余金の一部などを積み立てたものです。税収が減少したときや突発的に多額の財政需要が発生した時など、サービス水準を一定に保つため取崩して用いるなど、複数年度間の財源調整を目的とした基金で、一般家庭の預貯金に似ています。

ITバブル崩壊後の経済不況からの回復期に基金の積立てを積極的に進めてきましたが、リーマンショック以降の経済不況に伴う税収不足に対応するため、平成 21 年度以降は 23 年度を除き取崩額が積立額を上回り、残高は減少しています。平成 26 年度は積立額 40 億円、取崩額 68 億円を見込んでおり、年度末の残高見込は約 $\frac{81}{74}$ 億円となります。

(グラフ 15) 財政調整基金残高の推移



※24 年度までは決算額、25 年度・26 年度は決算見込額

6 相模原家の家計簿

市の財政について、皆さんに身近に感じていただくために、市の予算を家計に例えてみます。相模原家の年収を 500 万円と仮定して当てはめてみたのが下表です。

※26 年度当初予算額から算出 (カッコ内は 25 年度当初予算額との比較)

収入		支出	
基本給 (市税)	218 万円 (△4 万円)	食費 (人件費)	84 万円 (△6 万円)
諸手当 (譲与税・ 交付金・国県支出金など)	143 万円 (+3 万円)	医療費 (扶助費)	137 万円 (+2 万円)
貯金の取崩し (基金繰入金)	15 万円 (△9 万円)	ローンの返済 (公債費)	46 万円 (△2 万円)
家賃収入 (使用料・手数料など)	54 万円 (△1 万円)	その他生活費 (物件費など)	144 万円 (+7 万円)
親からの仕送り (地方交付税)	16 万円 (+2 万円)	家の増改築費 (普通建設事業費)	45 万円 (△1 万円)
生活資金のローン (臨時財政対策債)	29 万円 (+2 万円)	子どもへの仕送り (他会計への繰出金)	44 万円 (±0 万円)
家の増改築のローン (建設債等)	25 万円 (+7 万円)		
合 計	500 万円	合 計	500 万円

収入では、給与や家賃収入では依然として生活に十分な額には満たないため、親からの仕送りや貯金の取崩しなどでしのいでいます。しかし、親(国)の家計も苦しいため仕送りは全額をもらえず、一部を仕送りに代わるものとして生活資金のローンを借りています。(返済資金は親が仕送りしてくれる約束になっています。)

このほか、相模原家のローン残高は 498 万円、貯金が $\frac{26}{24}$ 万円となっています。

ローン残高	498 万円 (△10 万円)
貯金	$\frac{26}{24}$ 万円 (+ $\frac{3}{1}$ 万円)